

令和4年11月1日に思う

ロシアプーチン大統領の常軌を逸した蛮行が加速しています。ウクライナ軍の攻勢をうけ、戦況に行き詰まりがあるのか「住民投票が成立した」として軍事侵攻で占領したウクライナ東部、南部の支配地4州を自国に併合すると一方的に宣言した。またヨーロッパ最大級のザポリージャ原発を支配し、さらには暮らしに直結する火力発電所の攻撃、予備役兵を動員するなど、ますます和平への道を閉ざしています。あらためて国際社会の役割、国連の機能不全が問われています。

今年の前爆記念日、広島市長の平和宣言を紹介します。(一部抜粋して、原文のまま)

「ロシアによるウクライナ侵攻では、国民の生命と財産を守る為政者が、国民を戦争の道具として使い、他国の罪のない市民の命や日常を奪っています。そして世界中で、核兵器による抑止力なくして平和維持はできないと言う考え方が勢いを増しています。

これらは、これまでの戦争体験から、核兵器のない平和な世界の実現を目指すこととした人類の決意に背くことではないでしょうか。

武力によらずに平和を維持する理想を追求することを放棄し、現状やむなしとすることは、人類の存続を危うくすることにほかなりません。過ちをこれ以上繰り返してはなりません。」繰り返し私の主張です(本紙5月号)。「品のある戦争は存在しない」。ゆえに政治家が最も心にすべきことは、戦争を回避することにあります。「銃を手にするより他に方法がなかった」と言わない社会でありたいと思います。